

令和8年7月22日総合計画審議会専門部会A-2

参加者： 阿部委員、飯島委員、平谷委員、中村委員

欠席者： 宿谷委員（書面提出）

ファシリ：西村さん 板書：河井

障がい者の自立支援と社会参加の促進

○質問

委員

成果指標の②について何人のうち11人なのか。一般就労の分母はどれくらいなのか。

清末補佐

就労支援サービスの全数を確認することはできるが、障がい者手帳を持っていて個人で就労した場合はカウントできない。

森課長

就労したい人数という意味では回答はできない。

委員

目標値との乖離はどのような理由が考えられるか。

森課長

当時に障がい者施設の開設等あったためと考える。

○評価の妥当性

委員 C

成果指標の向上、課題認識等取り組みから判断した。

委員 C

マネジメントシート全体を見て判断した。

基幹相談支援センターの強化、相談支援体制の強化という点を評価した。

委員 C

成果指標①は住民意識調査の数値で難しいと考え、成果指標②で判断をした。

委員 D

成果指標①目標値に届かないため。

3施策の達成状況の根拠（理由）にある「障害者の立場ではないためわからない」という回答が気になる。周知徹底されていないためではないかと考え判断した。

委員 C

成果指標①の増加から。

○今後の取り組みに対する意見

委員

住民等からの相談内容により各課で横断することがあると思う。庁内の連携に力を入れてほしい。

森課長

重層的支援として行っていくことで、課を横断し連携に力を入れるため整備を進めている。

委員

高齢化社会であるため、障がい者が高齢化した際の取り組みを。

清末補佐

65歳で通常は介護のサービスに切り替えを行っている。

だが切り替わらない方もいる。高齢者の相談をする地域包括支援センター、障がい者の相談をする基幹相談支援センターがあいあいの2階にあり、同時に相談を受けることができるよう取り組んでいる。

委員

障がい者施設の職員の業務量が多く苦勞していると聞いた。

障がい者だけではなく、働いている職員のことも考えてほしい。

清末補佐

今年度は障がい福祉計画の策定の年である。その際にアンケート調査をする。

事業所にもアンケートをとり状況の確認し、計画に盛り込むことを考えている。

委員

「障害者の立場ではないためわからない」という点について、具体的に何をしたらいいか分

からないが、健常者が障がい者に触れ合う機会の創出をすることで解決にならないか。

委員

参加型の啓発は興味のある人しか行かない。だから難しいのではないか。

例えばイベントの一角で行うなど、強制的に参加、触れ合うする機会を設けてはどうか。

互いに認め合う地域社会の形成

○質問

委員

この施策は広く人種差別など多種多様なことを取り扱っているものと感じる。
男女共同参画についてしか触れられてないと感じる。

森課長

男女共同参画のみの記載ではなく、人権擁護や、高齢者の権利擁護についても盛り込んでい
る。

○評価の妥当性

委員 C

成果指標が前年実績を上回っていることから判断。

委員 C

言葉の意味が分からない部分があり、全体が大きく感じる。
判然としない部分はあるが、実施していることは理解できたため。

委員 C

成果指標が向上していることから判断。

委員 C

成果指標が右肩上がり。
普及啓発が進んでいることから右肩上がりになった評価。

委員 C

成果指標①の実績が伸びてきていることから。

○今後の取り組みに対する意見

委員

子どもの人権教室を行うことはいいことだが、子供にきちんと伝わっているのか。

委員

5 施策の課題認識にある認知症等の権利擁護をぜひ進めてほしい。

委員

子どもの人権教室は良いことと考える。

大人だと難しいため、子供からの教育が重要だと感じる。

委員

男女共同参画が足りてないと感じる。まだまだ進めてほしい。

上寫主査

子どもの人権は重要と考えている。今後も続けていく。

河井

男女共同参画は継続し啓発を行う。

委員

自分が子供だった時や、それより前は考えられなかったが、今は女性の生徒会長や企業の経営者などなかった。なので進んでおり、今後も進んでいくのではないかな。

森課長

「アイヌが」や「障がい者が」といった、個別の取り組みだけではなく、広く進むよう取り組みを行う。

委員

成年後見制度は業務委託で社協が行っており進んでいると感じる。

高齢者福祉の充実

○質問

委員

介護人材の確保はどうか。

久保課長

施設がストップするほどではないが、厳しい状況である。全国的にも厳しい状況である。

委員

なり手がいない要因はどういったものを考えているか。

久保課長

主なものは待遇面と考えている。

○評価の妥当性

委員 C

マネジメントシート全体を確認し判断。

委員 C

成果指標からを中心に考え、担当課評価の欄からも前進したと判断。

委員 C

担当課評価の欄から判断。

委員 C

後期実施計画から見て成果指標が前進していると判断。

委員 D

成果指標③が過去3年で最低となっていることから。

○今後の取り組み

委員

5施策の課題認識に記載のとおりお願いしたい。

窓口で難しい話が出てくると思うが、粘り強く取り組んでほしい。

委員

高齢者は機械化、A I が進んでも難しいのではないか。

この施策は人と人の接点が大事だと考える。介護サービスの人が減ると満足度は下がると考える。なので、人材確保が大事だと考える。

委員

高齢者人口の増加が考えられるが、予算の配分が足りなくならないように取り組んでほしい。他の委員と同様に、人材確保が大事だと考えている。

委員

まる元の事業の予防は良いことだと考える。

介護人材が集まらない点についてどのように取り組んでいくか。

久保課長

5 施策の課題認識に記載の地域包括ケアシステムについては以前から取り組んでいる。

現在は全世代に取り組みを進めている。

介護人材については、介護報酬の人件費の改定が改定期ではない今年度に緊急で行われている。なり手不足の一部の解消につながるのではないか。

予算については、介護保険にかかる計画についても次期計画で、財源である介護保険料についての検討も行っていく。

委員

高齢者が買い物難民になっているのではないか。

河井

じゃがバスや農村部タクシー助成を行っており、取り組みは行っている。

久保課長

交通は通院の助成を行っている。

住民意識調査では、交通を不安に思う意見がある一方、じゃがバスが便利という声もある。

必要に応じ、政策推進課と検討していきたい。

委員

CHIKUWA！というシステムで高齢者の見守りを行っている地域がある。導入についてはどうか。

河井

町内会のシステムと別の会議の際に話があったと記憶している。

再度、意見があった旨、魅力創造課に伝える。

委員

高齢者福祉を充実させるために、民生委員からの情報共有や、役場からの情報提供があれば、より良くなると考えている。今後も協力をお願いしたい。

久保課長

民生委員の制度について、守秘義務など持った非常勤の公務員であり、重要性は改めて周知は行った。今後も連携していきたい。